

第九十回帝國議會 衆議院

自作農創設特別措置法案外一件委員會會議錄(速記)第二回

付託議案 自作農創設特別措置法案(政府提出) 農地調整法の一部を改正する法律案(政府提出)

昭和二十一年九月十二日(木曜日)午前 十時三十一分開議

出席委員

- 委員長 葉梨新五郎君
理事 上林山榮吉君 理事 飯島 祐之君
理事 細野三千雄君 理事 富吉 榮二君
理事 藤本 虎喜君 理事 布 利秋君
磯崎 貞序君 古賀 太郎君
田邊 讓君 森田 豊壽君
深田 謙太郎君 山口 好一君
青木清左五郎君 小笹 耕作君
寺島隆太郎君 保利 茂君
吉澤仁太郎君 井伊 誠一君
大澤喜代一君 玉井 潤次君
中原 健次君 橋本 二郎君
松澤 一君 橋本 二郎君
北 政清君 山木 武夫君

出席國務大臣

- 文部大臣 田中耕太郎君
農林大臣 和田 博雄君
農林事務官 笹山茂太郎君

本日ノ會議ニ付シテ議案

自作農創設特別措置法案(政府提出) 農地調整法の一部を改正する法律案

(政府提出)

○農地調整委員 是ヨリ會議ヲ開キマス、前日ニ引續キマシテ質疑ヲ行ヒマス。○保利委員 私ハ日本ノ現狀カヲ將來

第六類第二十五號 自作農創設特別措置法案外一件委員會會議錄 第二回 昭和二十一年九月十二日

ヲ考ヘマスル時、狭小ナル領土ノ上ニ大ナル人口ヲ擁シテ、如何ニシテ今後ノ國家ノ發展ヲ促スカト云フコトニ付キマシテハ、固ヨリ商工業ノ新シイ角度ニ立ツタ中小工業的産業ヲ基礎トシテ發展ヲ促ス云フコトニ、今後ノ産業ノ政策ノ重點ヲ置カレナケレバナラナイト存ジマスガ、何ト申シマシテモ、我が國ハ健全ナル農村ヲ國家ノ中核體トシテ今後發展ヲシテ、レナケレバ我が日本民族ノ將來ハ實ニ心配ヲセラレルノデアリマス、此ノ場合今回ノ第二次農地改革案ガ提出セラレマシテ、全小作地ノ約八割ニ相當スルモノガ耕ス人ノ持物トナルヤウナ施策ヲ講ゼラレル此ノ改革案ハ、構想ニ於テ、骨組ニ於テ、私共是ガ新シイ日本農村ノ建設ノ基礎タル基本的條件ニ適フベキモノデアルト云フコトヲ率直ニ認メルニ答カデハゴザイマセス、併シナガラ我が國農村發展ノ跡ヲ考ヘテ見マシテ、現ニ農村ニ存シマスル美風ノ育成發展ヲ阻礙スルヤウナコトガカツテハナラナイ、斯ウ云フ心構ヘカラ、私ハ三、四ノ重要ナル根本ニ觸レルト思ハレマス點ニ付キマシテ、政府ノ所信ヲ伺ヒタイト思フノデアリマス

今日耕作農民ノ最モ要求スル、熱望シテ已マザル所ハ、要スルニ耕作ノ地位ノ安定——是ハ今回ノ自作農創設特別措置法及ビ農地調整法改正ノ第一條ニ符節ヲ合シテ諷ツテアリマスヤウニ、耕作ノ地位ノ安定ト云フコトガ第一目標ニセラレテ居リマスガ、是ガ今日ノ小作農民ノ大體齊シク熱望スル所デアリマス、ソコデ政府ハ今日二百万町歩ニ互ル小作地及ビ百十萬町歩ノ民有未墾地ヲ以テ二箇年ノ間ニ一舉ニ一町歩以内ノ自作農ヲ創設セラレヨウト計畫セラレテ居ルノデアリマスガ、今日ノ小作農民ノ心理ガ、私ハ決シテ耕作ノ土地ニ對スル強イ執着心ヲ否定スルモノデハゴザイマセスケレドモ、少クトモ今日ノ農家ノ經濟事情、複雜ナル現下ノ農村ノ經濟事情カラ、或ハ又農民ノ心理カラ申シマシテ政府ガ御考ヘニナツテ居ルヤウニ、土地ヲ所有スルコトニ對シテ飛付カヤウナ強イ所有慾ガ働イテ居ルカドワカト云フコトニ、相當ノ疑ヒナキヲ得ナイノデアリマスガ、農林大臣ハ此ノ點ニ付テ如何様ニ御考ヘニナツテ居ラレドアルマセウカ、私共ハ少クトモ歴史ノ轉換期ニ當ツテ、此ノ土地制度ノ大改革ヲ斷行セラレルニ當ツテ、何トシテモ此ノ目的ヲ達成セシメテヤラナケレバナラナイ、地主諸公ト致シマシテモ隨分大キナ犠牲ヲ拂ハレルコトニナリマスガ、日本國民ガ皆今ノ歴史ノ轉換期ニ立ツト云フ一大自覺ノ下ニ、小作者モ地主モ本當ニ新シイ村ヲ作り出スノダト云フヤウナ氣持カラ、此ノ改革案ニ對處シナケレバナラナイト存ジマスガ、ドウモ私ハ通觀致シマシテ、今日ノ小作農民ガ果シテ政府ガ豫期セラレテ居ルヤウニ、期待セラレテ居ルヤウニ、直チニ土地所有慾ガ旺盛ニ働イテ自作農家ニ流レ寄ツテ、二箇年ノ間ニ此ノ小作地ガ全部自作化セラレカドワカ、洵ニ不安ヲ抱イテ居ルノデゴザ

見タイ ○和田國務大臣 只今ノ保利サンノ御質問ニ御答ヘ致シマス、今回ノ農地制度ノ改革ヲヤリマス上ニ於キマシテ問題ニナリマスノハ、御指摘ノヤウニ、小作人ガ果シテ自作人ニナルコトヲ欲スルカドウカ、小作人ハ小作人トシテ居ル方ガ宜イノデ、自作人ニナルコトヲ寧ロ好マナイモノガアルノデハナイカ、ザウ云フ場合ハソレ等ノコトニ付テハドウスルカ、斯ウ云フコトデアリマスルガ、私ハ此ノ農地ノ小作人ガ小作人トシテ耕シテ居リマスヨリモ、寧ロ自作トシテ自分ノ土地ヲ自分ノ手デ、且ツ自分ノ資本デ自分ノ家族ノ力デ耕シテ行クト云フ事柄ノ方ガ、何ト言ヒマシテモ小作人ニハ、耕ス者エハ有利デアリマスルシ、又土地ニ對スル農民ノ強イ意欲カラ言ヒマシテモ、自作ニナルコトヲ欲シナイ、小作ト云フモノハ、數ニ於キマシテハソレ程多クハナイト思フノデアリマス、併シ數多クノ小作人デアリマスルノデ、中ニハソレハ意欲ノ違ツタ者モ居リマスルノデ、或ハ私ハ若シモ小作人ガ將來農業恐慌ガ來

ルトカ、或ハ租税ノ負擔ノ爲ニ却テ自作ノ方ガ不利ナルトカ、又將來農地ガ或ハ無償デ手ニ入ルノデハナイカト云ツタヤウナ誤ツタ事柄カラ、自作ニナル買取りヲシナイト云フヤウナ者ニ付キマシテハ、今回ハ凡ソル機關ノ員致シマシテ、十分納得ノ行クヤウニ話シマシテ、是等ノ議論ニ從フ小作人ニ對シテ能ク納得セシメマシテ、自作人タラシメテ行キタイト思フノデアリマス、今ノ此ノ「インフレ」ノ時期ニ於テ、長イ日本ノ將來ノ農業ノコトヲ考ヘテ見マスルト、丁度第一次ノ歐洲戰爭ノ後「ドイッ」ニ於テモ、アノ「インフレ」期ニ於テ自作人ニナルト云フコトヨリモ、寧ロ小作人デ居ツタ方ガ宜イノデハナイカト云フ議論ガ一時行ハレタノデアリマス、併シヤハリ時ノ先覺者達ハ、此ノ際ドウシテモ小作人ニハ土地ヲ持タシテ置ク、言換ヘレバ、農家ノ中ニ戰爭中蓄積サレマシタ資本ヲ早ク土地ノ生産手段ニ變ヘテ置カセルト云フコト、或ハ農業ノ建前カラ言ヒマシテモ、自作人ト云フ健全ナル農家ヲ作ツテ行ク方ガ將來ノ「ドイッ」ノ爲ニハ宜イノデト云フコトデ、盛ンニ唱導致シタノデアリマスガ、果シテ其ノ後ニナリマシテハ、自作農ニナリマシタ者カラハ非常ナ感謝ヲ以テ迎ヘラレタヤウナ事例ガ多クアルノデゴザイマシテ、私ハ日本ニ於キマシテモ、今回ノ農地改革ニ於テハ、是非ザウ云ツタ事柄ニ付テハ十分小作人ニ理解致セル手段ヲ講ジマシテ、是非自作農ノ創定ト云フコトガ十分實ヲ結ビマスル

半多三農多タイ、農地ニ考ヘテ居リマ
ス、私大農地村ニ於キマス農地委員
會ニ依リ計畫ニ從ヒマシテ、自作農ノ
創設ハ出來ルト思フ、テアリマスガ、
サウヂナ者ニ付テハ只今申シマシタ
ヤウニ多ク思ヒマス、ソレモ
尙且ツ小作人ガ買取リヲ希望シナイト
云フ高ク、ソレモアリマスナラバ、
我々ト致シマシテハ、ソレ等ノ土地ハ
農業會デアリマスルカ其ノ他農事實
行組合アリマスルカ、サウ云ツタ
モノガ將來自作農ノ創定ヲ行ヒマス
爲ニ、ソレ等ノ團體ニ實渡シタリ、或ハ
農地委員會ニ管理ヲ便宜的ニ致サセマ
シテ、サウシテ此ノ自作農ノ創定ト云
フコトノ結果ガ實全ノ期シテ行キタイ
ト思フヲサテリマス、是ハ二箇年間ニ
行フコトニナラテ居リマスルカ、其
ノ點ニ付テハ、行政方面ノ此ノ
制度ヲ完備致シマスルカ、十分
村々ニ大テ行キタイ、今則チ農地改革
ノ趣旨ガ徹底セシマシテ、農地委員
會ニ早ク計畫ヲ立テサセルヤウ
ニ致シマシテ、急速ニ實行致シテ行キ
タイト斯ク考ヘテ、只今準備中著々
致シテ居ルヤウナ次第ガアリマス
○保利委員 大體私モ、耕ス方々ニ、
其ノ耕ス土地ノ自分ノモノニ持チタイト
志強ク土地所有感ガ働イテ、大體所期
ノ計畫ニ近イモノガ自作化セテ居ルヤ
ウト云フコトハ、大臣ト同様ニ考ヘマ
スケレドモ、ソレハ大體アリマシテ、尙
亦相當部分ガ、今大臣御話ノヤウニ、
ヤハリ全國ノ村々ニ此ノ二箇年後ニ幾
サレルコトニナルノデハナイカ、サウ
シマスルト、所謂農村自治ト云フ觀點
カラ見マシテ、是ハ相當深ク考ヘテ見
ナケレバナラナイノデハナイカ、私ハ
端のニ申シマシテ、農村自治ハ農地ノ

上ニ立ツテ居ルト申シテモ過言ナハナ
カララト思フヲサテリマス、農村ノ健
全性ハ農地村ノ健全性ト云フヤウ
ナモノハ土地ノ離レテハ成立タナイ、
編のニ農村自治ハ農地ノ上ニ立ツテ居
ルト申シテモ差支ヘナイト思フヲサ
リマス、隨テ村ノ土地ハヤハリ其ノ村
ノ團體、或ハ村ノ人々ノ手ニ殘サレル、
離レセラレルト云フコトガ、農村自治
發展ノ基本ノ要件デアラウト思ヒマ
ス、斯ウ云フコトモ大キナ一ツノ理由
トナツテ、不在地主ノ解消、ソコニ主
力ヲ置カレタル自作農制定ト云フモノ
ノ多年農林省ガ苦心サレ、政府ガ苦心
ヲサレテ、現大臣ノ如キモ此ノ點ニハ
最も深い關心ヲ持テ努力ヲ拂ハレテ
來タコトト思フデアリマスガ、二箇
年後偶々幾サレタル自作化セラレザル
所ノ土地ガ、全國ノ農村ニ介在スルト
云フコトハ、國家ノ權力ト直接結ビ付
イタ土地ガ其ノ農村ノ自治體ノ中ニ介
在スルト云フコトニナリマシテ、所謂
農村自治ノ根本ニ相當大キイ事態ヲ醸
シ出シテ來ルト云フコトヲ否メナイノ
デハナイカ、ソコデ大臣ハ、二箇年
後ニサウ云フ未處理ノモノガ幾ツタ場
合ハ、或ハ實行組合、或ハ農業會等ニ
依ツテ管理ヲセシメラレルト云フヤウ
ニ御考ヘデアアルガ、私ハ更ニ、ソレヲ
一歩進メテ戴キマシテ、サウ去フ二箇
年後ニ未處理ノ土地ガ幾ツタナラバ、
ソレハ農業會ナリ、或ハ農事實行組合
ナリニ經濟的、財政的裏打チヲ講ゼラ
レテ、少クトモ村ノ土地ヲ速カニ村ニ
返スト云フコトガ最も必要デアラウカ
ト思フノデアリマスガ、若シサウ云フ
手段ヲ講ゼズシテ、單ナル農業會或ハ
實行組合等ノ管理ニ任セルト云フコト
ニナリマス、是ヨソ私ハ不在地主ノ

解消ト云フコトガ多年叫ビレテ來テ居
リマシタリ、其ノ點ニ於テ云々重大
ナル在農地主ガ全國ノ農村ニ點在スル、
而モ其ノ不在地主タル者ハ其ノ管理モ
入情モナイ本當ノ整理一片デ勤サレ
ル、而モ直接支配スル者ハ縣廳ノ役
人ノ諸公デアル、縣廳ノ連中ガ村々ニ
直接支配スルヤウナ農地ヲ置クト云フ
コトハ、村全體トシテハ實ニ懸念至極
デアル、少クトモ農村ノ自治ヲ發展セ
シメル所以デハナイト思フノデアリマ
スガ、之ニ付テ特別ノ考慮ヲ拂フ要
アリト私ハ存ズルノデアリマス、單ニ農
業會或ハ實行組合ノ管理ト云フコトヲ
今一數ト進メテラレマシテ、二箇年後ニ
ハ左様ナモノハ農業會或ハ村ニ返スト
云フヤウナ御考ヘニハナレナイカドウ
カ何ヒタイ次第デアリマス
○和田國務大臣 一寸私ノ言葉ガ足リ
マセズテ甚ダ失禮致シマシタ、餘リマ
シタモノハ先ツ第一ニ其ノ村ノ農業會
ナリ、農事實行組合ニ實渡ス、斯ウ云
フコトヲ先程モ申上テ、譯デアリマ
ス、實渡スガ、尙ホサウ云フコトガ出
來ナイヤウナ場合ニハ、是ハ村ノ農地
委員會ノ管理ニ任ス、第一段トシテハ
何處デモ其ノ村ニ於ケル農業者ノ團
體デアル實行組合デアルトカ、農業會
ニ實渡ス、斯ウ云フ種リデ居ル譯デア
リマス、御意見ノヤウニ不在地主ヲナ
クナシマシテ、村ノ土地ハ村ノ人ガ持
ツテ居リ、サウシテ村ノ人ガ持ツテ居
ル土地ヲ耕シテ行クト云フコトガ、ヤ
ハリ何ト申シマシテモ農村ノ自治ノ上
カラ行キマスレバ必要デアリマスルノ
デ、其ノ點ハ昭和ノ農業恐慌ノ時ニモ
身ヲ以テ我々モ體驗シ、農家ノ實際ノ
事情ニ當ツテ居ル人達モ體驗シタコト
デゴザイマシテ、其ノ點ニ付テハ全ク

甚モ保利委員ノ内閣委員ヲリキシテ、
先ツ村ノ農業會ナリ實行組合ニ實渡ス
ト云フコトニ致ス考ヘデアリマス
○保利委員 ソレデ私モ大イニ安堵ス
ル譯デアリマスガ、更ニ今同ノ計畫
ハ經營上非常ニ困難ナ問題デアラウト
思ヒマスケレドモ、ドウシテモ此ノ目
的ヲ達成セシメナケレバナラナイ、或
功ヲ收メテ戴クコトヲ私ハ國家並ニ農
村ノ爲ニ念願シテ已マナイ所デア
ル、併シ一應本計畫ガ相當ノ成果ヲ收メ得
マシタトシテ、現狀ヲ平面的ニ申シマ
スナラバ、或程一町歩以内ノ自作農家
ガ各村々ニ出來上ルト云フコトニナリ
マシテ、洵ニ日本ノヤウナ貧弱ナ農業
國トシテハ、理想ニ近イ一ツノ耕作形
態ガ整フテハナイカ、問題ハ之ヲ今
後如何ニ維持育成シテ行カト云フコ
トニ懸ツテ來ヨウト思ヒマス、先般
來同僚諸公カラ、難テ來ルベキ所ノ世
界的農業恐慌ト申シマスガ、農産物過
剩時代ニ當リ、再び我が國ノ農村ニ農
業恐慌ガ襲フヤウナ事態ハ誰シモ豫想
シテ、ソレニ依ツテ折角非常ノ措置ヲ
以テ斷行セラレル所ノ此ノ改革ガ、再
ビ又元ノ状態ニ還ル農民ヲ多數ニ出ス
ノデハナイカト云フヤウナ心配ヲセラ
レル向キモアリ、ソレニ對スル大臣ノ
御所見ハ何ツテ居リマスガ、私ハソレ
トハ別ニ、敗戦日本ノ今後ノ狀態ト云
フモノハ、冒頭ニモ申シマスヤウニ、
結局今マデ比較的中以下ノ農家ノ次男
坊、或ハ三男坊ト云フヤウナ方ハ、或
ハ陸海軍ノ軍人ガ志望スルトカ、或ハ
又都會方面ノ工場ニ於テ新シイ生活ノ
天地ヲ見出ストカ、少クトモ農村カラ
故郷ヲ離レテ新シイ生活ノ天地ヲ見出
スコトニ、相當困難ナ時代モアリマシ
タケレドモ、大體ニ於テソレハ今日マ

テ行ハレテ來タ、或ハ時代ニハ農村ノ
人口ガ著シク減ツテ來ル、之ヲ始端ニ
置キタルカト云フコトヲ心配モラセタ
時代モアリタヤウデアリマスガ、今後
ハ遺憾ナガラ此ノ農村ノ次男、三男ト
云フヤウナ人達ガ獨立スル時ニ、
何處ニ生活ノ根據ヲ求メルカ、故郷ヲ
離レテ生活ノ天地ヲ求ムルト云フコト
ガ困難ナル以上、ドウシテモ其ノ村
ニ留マラザルヲ得ナイ、サウスレバ今
日平面的ニハ或程一町歩程度ノ自作農
化セラレタ農家ガ、五年、十年後ニハ、
法制上ハ出來ナイカモ知レマセマケレ
ドモ、實質的ニハ再び三段階乃至五段
歩ノ所謂墮落零細農家ガドウシテモ現
出シテ來ルカデハナイカト思フ、少クト
モ今同ノ此ノ改革ヲ出サレル以上ハ、
政府ニ於ケレテモ此ノ點ニ付テハ相當
思ヒビ致サレテ居ルコトハ存シマス
ケレドモ、少クトモ此ノ改革ヲ斷行セ
ラレル以上、其ノ對策ヲ如何ニスルカ
ト云フコトハ、全國ノ農村ニ向ツテハ
タキリト具體的ニ政府ハ御示シナラ
ナケレバナラナイ義務ガアルト私ハ
存ズルノデアリマスガ、其ノ點ニ付テ
テ御考ヘハ如何デアリマスカ御伺ヒシ
タイ
○和田國務大臣 只今保利委員ノ
質問ハ實ハ農業ノ方ノミナラズ、日
全體ノ「エンプロイメント」ノ問題ト
テハ、根本的ナ問題ダラウト思フツテ
リマス、只今ノヤウナ問題ヲ唯農業ガ
デ解決スルコトハ理論的ニハ出來ナ
ト考ヘマス、此ノ問題ハヤハリ日本
國民經濟全體ノ「エンプロイメント」
問題トシテ考ヘナイ限りハ、究極ノ結
ハ出テ來ナイ、斯クニ考ヘテ居ルノ
アリマスルガ、唯農業ノ方ト致シマ
テハ、斯ウ云フコトハ私ハ考ヘザル

得ナイト思フノデアリマス、今回自作農特別措置法、其ノ他調整法ノ改正ニ依リマシテ、農業ノ面ニ於キマシテハ農地制度ノ改革致シマシテ、耕ス人達ニ墾ニ角土地ヲ與ヘテ、安心シテソコニ耕作シテ行クト云フ一ツノ地盤ヲ造ツタ譯デアリマス、是ハ一ツノ單ナル地盤デアツテ、ソレダケテ必要ニシテ十分ダトハ實ハ言ヘナイデアリマス、併シ今ノ日本ガ回復シテ行キマスノニ、一體ドウ云フヤウニ回復シテ行ツタ宜イカト云フ問題カラ考ヘテ見マスト、日本ニ於テ只今缺ケテ居ルノハ、私ハ何ト書ツチモ資本ダラウト思フ、相當ノ努力ハアリ、土地ハアツテモ、所謂資本ト云フモノガ此ノ戰爭ニ依ツテ凡ユル面ニ消耗サレマシテ、資本ノ缺乏ト云フコトガ日本ノ今ノ全體ノ生産力ノ低下ト云フ現象トナツテ現ハレテ居ルノダラウト思フデアリマス、サウスルト此ノ日本ガ回復シテ行クノニハ、一體ノ面カラ回復シテ行ツタ宜イカト云フコトニナルノデアリマスガ、ソレハ各面ソレレノ相互依存ハシテ居リマスガ、兎ニ角比較的影響ノ少カツタ農業ト云フモノニ於テ、ソコニ出來得ルダケ早ク資本蓄積ノ餘地ヲ與ヘ、ソレニ依ツテ他ノ産業ノ事情ヲモ擔養致シマシテ、日本ノ經濟全體ガ擴大スルヤウナ基礎ヲ作ル、サウ云ツタ方向向ケテ行ク、斯ウ云フコトデナイト、中々回復ノ餘地ハ難カシイト思ヒマス、農業ニ於テハ其ノ意味ニ於テ農業者ノ生産力ト云フモノヲ高メテ、經營ノキリ方自身ヲ多角型化シテ、農業ガ生ズル所ノ所謂價值物ヲ多クスルト云フ一方、農業ノ内部ニ努力ト云フモノヲ多ク包容シ得ル途ヲ講ズルノミナラズ、ヤハリ農村工業テナ

リマストカ、サウ云ツターツノモノヲ農村ニ持ツテ來マシテ、日本ノヤウナ農地改革ヲヤツテモ過小農ガ残り、又將來ノ人口ノ増加ガ豫想サレルモノニ付テハ、サウ云ツタ方面ニ人口ノ吸收ヲ圖ツテ行ク、斯ウ云フコトデナイト、農業ダケテ將來殖エテ來ル人口ヲ吸收シト云ツテモ、恐ラクサウ云フコトハ何處ノ國デモ出來ナイ相談デアリマシテ、其ノ點ニ付テハ農業ノ内部ダケデナク、農業ノ外部ニモサウ云フモノヲ吸收スルノダト云フ前提ニ立ツテ議論セザルヲ得ナイデアリマシテ、我々ガ差詰メ考ヘテ居リマスノハ、工業ノ地方分散、其ノ他農村工業ノ復興、又農業以外ノ山村其ノ特色々々方面ヘノ職業ノ開拓、又一般ノ開拓地、今度計畫トシテ立テ居リマス開墾地ノ擴張ト云フヤウナ、凡ユル方法ヲ講ジナケレバナラヌノデ、現在ニ於テ出來ルダケ多クノ人口ヲ農業部ニ吸收シテ行クト云フ方途ヲ執ツテ行キタイ、斯標ニ考ヘテ居ルノデアリマス、將來日本ノ農業ガ、今回ノヤウナ形ニ於テ一應平均化サレタ農業ガ、協同組合ノ力ニ依リ、又設備ノ發達ニ依リ、經營其ノ他ノ多角化ニ依リ發展シテ行クナラバ、是ハ或ル程度ノ人口ノ問題モ「エンブライメント」ノ問題トシテ解決シ得ル見込ハナルト思フデアリマスガ、農業ダケヲ孤置サセテ、仰シヤルヤウナ問題ヲ解決シテ、仰シヤルモノ、是ハ事實上出來ナイト思ヒマス、サウ云フ「アイディア」等今後ノ農業ノ凡ユル施設ヲヤツテ行キタイト、考ヘテ居リマス

スルノ用意ヲ持ツカト云フコトニ付テハ、今後折角是ダケノ計畫ヲ斷行セラレントスル場合ニ、先ヅ其ノ御構想ヲ大凡ソハ調ベテ置カナケレバナラナイデアハナイカ、直グニト申シマスカ、少クとも今後ハ農村ニ自然増加シテ參リマス人口、詰リ戰災者、或ハ引揚者ハ現ニ非常ニ不自然ニ農村ニ吸收セラレテ居ル、此ノ非農家諸君ヲシテ農村ノ中ニ於テ如何ニ生活ノ根據ヲ與ヘシメルカ、農村工業ト云フコトヲ直グ言ハレマスガ、是ハ唯農村工業ノ興セトモナシ、ソコニハ國トシテ大キキ具體的計畫ガ立テラレナケレバナラナイ、私ハ此ノ問題ニ付テハ多ク觸レヨウトハ思ヒマセヌガ、ソコニ——今回ノ談會ニハ提案セラレテハ居リマセヌケレドモ、恐ラク難チサウ云フ御計畫ヲ立テラレト申シマスカ、農村協同組合ト申シマスカ、農地直接關係ヲ持タナイ非農家ノ諸君ガ、其ノ農村ニ相當ノ部分ヲ占ムルヤウナコトニナルコトハ、必然ノ事態デアラウト思ヒマス、此ノ場合農村ノ秩序或ハ平和、左様ナ我々ノ念願致シマス所ノ平和ナ農村、健全ナ農村ヲ如何様ニ運営シテ行クカ、今後ノ農村自治ノ運営ヲ何處ニ目標ヲ置イテ行クカト云フコトハ私ハ何ヒタカツタ譯デアリマスガ、此ノ問題ニ付キマシテハ大抵モ相當苦心ヲセラレテ居ルト思ヒマス、私ハ唯農業者ハ農業者トシテノ團體ヲ持チ、其ノ團體ノ中ニ立籠ツテ、齊シク村ノ中ニ居テ、農業者ハ農業者、非農家ハ非農家ト云フヤウナ對立的ナ、或ハ無關係的ナ妻ニ農村ヲ殘シタクタイ、少クモ農村ト云フモノハヤハリ農村一體ト云フ

考ヘ方デ、協同組合法案ノ御計畫モ左様ナ意味ヲ盛込シテ貫ヒタイト云フコトヲ私ハ強ク、念願シテ居リマスカラ、是ハ御意見ガアレバ伺ヒマスガ、御聽置キ戴イテ結構デアリマス

ソコデ私ハ此ノ土地問題ト云フヤウナ國家國民ノ大問題ガ、實施後半年ナラズシテ、又迫掛ケテソレ以上ノ大計畫案ガ出サレト云フヤウナコトハ、モウ今日ノ國情已ムヲ得ヌト申セバ已ムヲ得ザルコトデアリマセケレドモ、政府當局者トシテハ私ハ實ニ遺憾ナルコトデハナイカト存ズルノデアリマス、前回ノ農地改革ハ、五町歩以上ノ地主ヲ對象ニセラレテ居リマシテ、其ノ及ボシマシタ影響ハ相當深刻ナモノアリマシタケレドモ、其ノ數ニシテモ影響ノ度合ニシテモソレハ今日當回ノ改革案ハ五町歩以下、謂ハバ小地主——地主ト申シマス、何カ軍閥、官僚、資本家、地主ト云ツタヤウニ竝ビ稱セラレテ、假令一町歩ノ地主デモ何カ社會的、經濟的特權ヲ持ツテ居ルカノ如ク印象付ケルヤウニ言ハレル向キモアリマセケレドモ、五町歩以下ノ地主ト云フモノハ、今日此ノ議會ニドウ云フ法案ニナツテ出テ參リマスカ知リマセヌケレドモ、財產稅ノ納付有資格者ニ該當スル人ガ全國何人居ルカ、財產稅ヲ納ムルヤウナ人ハ殆ド居ナイデアハナイカ、申サバ庶民層ノ人デアリマス、此ノ庶民層ノ人々デアル小地主ガ對象トセラレテ居リマスダケニ、今回ノ計畫ガ實際實施ニ移サレテ參リマス、相當深刻ナ影響ヲ農村ニ持ツテ來ルコトト思ヒマス、ソコデ私ハ先程申シマシタヤウニ、サウ云フ方々ニシテ日本民族ハ歷史的轉換期ニ立ツテ居ルト云フ譯自

覺ヲ持タザル限り、殆ド諦メ切レナイト云フ實情ニアルト云フノガ、五町歩以下ノ小地主ノ方々ノ全部ノ心情デアラウト私ハ思フデアリマスガ、此ノ小地主、謂ハバ庶民層ニ屬スル人々ノ大イナル犧牲ノ下ニ此ノ計畫ガ斷行セラレトスレバ、耕ヤス農民ニ土地ヲ持タシメル、小作農ヲ自作化セシメルト云フコトハ、當然行フベキコトデアリ、政府モ亦ソレナラバコソ此ノ計畫ガ立テラレテ居ルノデアリマスガ、斯様ナ庶民層、小資產者、斯標ナ方々ノ犧牲ニ於テ時代ノ要求、政府ノ要求ガ斷行セラレ、政府ガ何等犧牲ヲ拂フコトナシニ、小市民——此ノ財產稅ヲ納メル力モナイ位ナ市民、農家ノ方々ノ犧牲ノミニ之ヲ掛ケラレテ、此ノ措置ヲ執ラレト云フコトハ少シ安當ヲ缺クノデアハナイカ、國ガ必要トシ國民ガ必要トスルナラバ、支拂フベキ犧牲ハ國家ガ負擔シテ之ヲ行フト云フコトガ當然ノコトデアハナイカト考ヘルノデアリマス、其ノ意味ハ、今回ノ土地買收價格ト云フモノガ、現行通り變更セラレナイト云フ點——農林大臣ハ米價ガマダ未決定デアルト云ハレマスケレドモ、假ニ石六百圓ト致シマスレバ、一段歩ノ價格ハ大體米三俵ニ値スルト云フ位ノ程度デアハナイカ、米三俵位デ其ノ土地ヲ手放ス、オ祖父サンノ時代成ハオ父サンノ時代ニ營々辛苦二町歩弟三町歩ヤツトノコトデ作上ゲタ其ノ土地、サウ云フ農村ノ社會史ト云フモノハ土地ニ纏ハル社會史デアル、一畝一筆々々殆ド農民ノ魂ノ入ツテ居ナイ土地ト云フモノハハナイ譯デアリマス、此ノ土地ニ對シテ今回ノ御計畫ニ依リ買收價格ハ、モウ申上ゲルマデモナシニ、經濟觀念ニ於テ考ヘ得ル價格ゲナイコ

ト大臣モ能ク御承知ノコトデアルト
思ヒマスカラ多ク申ス必要ハアリマ
セヌガ、其ノ犧牲ヲ小地主ニ拂ハシメ
ルコトハドウモ聊カ失當デハナイカト
私ハ考ヘルノデアリマス、而モ其ノ買
收對價ハ農地證券ヲ以テ交付セラレ
ル、今日我ガ國ノ財政上ノ一大暗影ヲ
ナシテ居リマス所ノ公債處理ガ如何様
ニセラレルカ、少クトモ政治經濟ノ今
後ノ趨勢ヲ見ル限リ、我ガ國ノ戰時公
債此ノ德國國民ノ資產トシテ殘サルベ
キデアルカ、之ヲ相當ニ處分スベキデ
アルカト云フコトハ、私ハ今後大キナ
課題トナルデアラウト思ヒマス、
ニ、公債ニ對スル不安ハ相當強イト思
フ、農地證券ハ公債トハ自ラ性格ヲ異
ニシテ居リマスケレドモ、等シク國家
ノ負債タルコトニ於テハ變リハナイ譯
ナノデアリマシテ、此ノ農地證券ノ安
定、少クトモ絕對不動ノ安定性ヲ持ッ
テ居ル土地ニ加フルニ、此ノ不安定、
不安ノ狀態ニ置カレル公債ノ兄弟分ノ
ヤウナ農地證券、之ニ依ツテ後ヲ構ハ
ナイト云フコトハドウデアルカ、少ク
トモセメテハ農地證券ノ經濟的價值、
財政的價值ノ安定ニ付テ、政府ハ特別
ノ考慮ヲ何等カノ手段ヲ以テ拂フノ要
アリト考ヘルノデアリマスガ、是等ノ
點ニ付テ大臣ノ御考ヘヲ伺フテ見タイ
ト思ヒマス

等カノ改革ヲ行ヒマセヌ限リハ、實ハ
日本ニ於テノ農地制度ノ改革ト云フコ
トハ無意味ニナツテシマフノガ現狀デ
アリマス、「ポツダム」宣言ノ趣旨ニ則
リマシテ、日本ノ民主化ヲ行ヒマス以
上ハ、ドウシテモ此ノ點ニ「メス」ヲ揮
ハザルヲ得ナイノデアリマシテ、其ノ
點ハ私本會議ニ於テ説明致シマシタ所
デ御諒承ヲ御願ヒ致シタイノデアリマ
ス、唯地主ニ付キマシテモ、此ノ報償
金ノ制度ヲ、依然階級致シマシテ、其
ノ點政府ト致シマシテモ社會政策的ナ
考慮ヲ拂ツテ居ル次第デゴザイマスノ
デアリマス、難カシイ理窟ヲ言ヒマ
スト、米價ト地價トノ關係ハ必ズシモ
御意見ノヤウデハナイト私共ハ考ヘマ
ス、併シハ「理窟」ニナリマスカラ、此
ノ際述べル五トハ差控ヘマスガ、兎ニ
角現在ノ狀況ニ於キマシテ、又將來ノ
日本ノ土地制度ヲ固メ、農業ヲシテ本
當ニ安定セシメル爲ニハ、ドウシテモ
斯ウ云ツタヤウナ形ノ土地制度ヲヤラ
ザルヲ得ナイ、斯様ニ考ヘルノデアリ
マス、殊ニ今後ニ於キマシテ日本ノ農
村ハ是等ノ人達ヲ中心ニ致シマシテ運
營サレルノデアリマスルガ、農村其ノ
モノハ御話ノヤウニ一ツノ協同體ヲ成
スモノデアリマシテ、單ニ農業者ト云
フダケデナク、他ノ者モ一體トナツテ
今後ノ農村ト云フモノハ形成サレテ行
クト云フコトニ付テハ私モ疑ヒヲ持ッ
テ居リマセヌ、又然ラバ將來日本ノ大
地主ナリ中小地主ナリガ、全然社會ノ
進歩ノ上デ何等ノ役割モ果サナカッタカ
ト言ヘバ私ハサウハ考ヘマセヌ、日本
ノ地主ハ、明治以來相當農業ノ發達ニ
對シテハ、果スベキ役割ヲ果シタト思
ツテ居リマス、其ノ點ニ付キマシテ我

我ト致シマシテハ、今回ノ此ノ農地制
度ノ改革ニ依リマシテ分散シマス大キ
ナ地主、又ハ中小ノ地主ニ付テ、日本
ノ土地制度ノ上ニ於テ、歴史トシテ取
ツテ置クベキ貴重ナ資料ハ、國家トシ
テ何處マデモ之ヲ保存シテ、正シイ日
本ノ歴史ヲ正當ニ過去ノ地主ガ果シテ
善キ役割ハ善キ役割トシテ相當認め
テ、是ハ歴史ノ上ニ記録トシテ保存致
シマスヤウニ、土地制度ノ資料保存會
ヲ作リマシテ、只今色々サウ云フ手段
ヲヤツテ居ル譯デアリマス、唯私ガ此
ノ際御諒解ヲ願ヒタイノハ、何ト申ソ
マシテモ過去ノ業績ヲ餘リ過大評價
致シマスコトハ、將來ニ於キマスル、
人類ノ進歩ヲ過小評價スルコトニナル
ノデゴザイマシテ、ソコハ私正確ニ其
ノ點ヲ認識シテ、色々ノコトヲヤツテ
行キタイト考ヘル次第ナノデアリマ
ス

ソレカラ農地證券ノ問題デゴザイマ
スガ、此ノ點ニ付キマシテハ、御話ノ
ヤウナ點ハ政府トシマシテ十分考ヘル
積リデアリマス、殊ニ創設サレマシタ
自作農カラノ繰上ガ償還等ガ許サレテ
居リマスノデ、ゾレ等ノ額等モ考慮致
シマシテ、金融機關ガ證券ノ買入ヲチ
ス等、適當ナ措置ヲ只今研究シテ居ル
ノデゴザイマシテ、御話ノヤウニ、此
ノ農地證券ハ普通ノ戰時公債ノ何カト
違ヒマシテ、證券ガ代行政シマスル土
地カラハ、自作人ガ年々耕作スルコト
ニ依リマシテ、ソコニ堅實ニ富ガ生産
ガレ、償還サレテ來ル譯デゴザイマス
ノデ、戰時公債トハ違ヒマスガ、御話
ノヤウナ點ニ付テハ只今申シマシタヤ
ウナ方法ニ依リマシテ善處スルヤウニ
決定致シテ居ル次第デアリマス

○保利委員 五町歩以上ノ大申ノ地主
ニ付テハ、既ニ前同ノ第一次農地改革
ニ於テ相當論議ヲ盡サレテ來テ居ル譯
デアリマス、ソコデ五町歩以下ノ所謂
小地主、少クトモ一町歩以上——今回
ハ一町歩以上五町歩マデノアリマスカ
ラ、一町歩以上五町歩マデノ小地主、
ソレガ又最後ノ農村ノ中堅トシテ、或
ハ保守デアルトカ、反動デアルトカ、
封建制デアルトカ云ツタヤウナ言葉ヲ
以テ論難セラレテ居ル向モアリマス
ガ、兎モ角モ日本ノ農村ノ運営ヲ、明
治以來ヤツテ來タ中堅ト云フモノハ、
此ノ階層デアル、茲ニ私共ハ謂ハバ農
村ノ中産階級ノ小地主、此ノ方々ガ明
治以來、日本ノ農業ノミナラズ、凡エ
ル階層ニ、或ハ其ノ子弟ヲ送り、或ハ
直接農村ノ爲ニ貢獻セラレタコトハ否
定シ得ナイ、隨テ又農林大臣ハ何時ゾ
ヤ、新ナル農村ノ指導層ノ現出ヲ期
待スルト云フコトヲ申サレタノデアリ
マスガ、又私共モサウデアリマス、併
シ少クトモ此ノ過渡期ニ於ケル農村ノ
中堅指導ノ任ニ立ツベキ者トシテハ、
是等ノ方々ノ度外視シテ考ヘテハ、日
本ノ農村ノ健全性ト云フモノヲ保持ス
ルコトハ絕對ニ出來ナイト私考ヘテ居
ルノデアリマスガ、ソレハ備テ措キマ
シテ、私ハ此ノ機會ニ文部大臣ニ御伺
ヒヲ申上ゲタイノデアリマス

○田中國務大臣 農村ノ素朴的精神
ハ、洵ニ國家ノ——殊ニ將來日本ヲ
建シテ參リマス意味ニ於テノ國家ノ柱
石ニナラナケレバナラナイト云フ風ニ
信ジテ居リマス、隨テ土地制度等ノ變
革ニ伴ヒマシテ、農村ノ子弟ガ高等教
育ヲ受ケルコトガ困難ニナツテ參ルト

云フコトニ付キマシテハ、文部當局ト致シマシテモ十分對策ヲ講ジナケレバナラナイト云フ風ニ存ジテ居リマス、此ノ問題ハ農村ニ付テモ存在シマスガ、一般ノニハ戰災者、或ハ引揚者ノ家族ノ問題、又一般ノ經濟生活ノ逼迫ト共ニ社會的全體ノ問題トシテ考慮シナケレバナラナイシ、又農村ニ付テ特ニ考ヘナケレバナラナイト云フ風ニ存ジマス、育英制度ハ御指摘ニナリマシタヤウニ、實ハ甚ダ微々タルモノデゴザイマス、併シナガラ文部省ト致シマシテハ之ヲ以テ決シテ満足ハ致シテ居リマセヌ、昨年度ノ豫算ト比較シマシテ、今年度ノ要求ハ五倍位ニナツテ居リマスケレドモ、ソレハ此ノ物價ノ昂騰、又多少ノ人員増加ヲ見積ツテノコトデアリマシテ、社會的ノ要求カラ考ヘマスト洵ニ燒石ニ水ノ感ガアリマス、此ノ育英制度ハ十分將來ニ於テ、擴充強加致シタイト存ジマス、併シソレダケハ足りマセヌノデ、ヤハリ農村ニ於キマシテモ、都市ニ於キマシテモ、働キナガラ學ブト云フヤウナ方面ニ制度的ノ考慮ヲ拂ハナケレバナラナイト存ジテ居リマス、農村カラ都會ニ出テ參ツテ學費ガ高ム、下宿屋ニ澤山ノ宿賃ヲ拂ハナケレバナラナイト云フヤウナ状態ニアル譯デゴザイマスカラ、斯ウ云フ状態モ出來ルダケ改善シテ、資材ノ許ス限リハ、最少ノ學費デ以テ學ブコトガ出來ルヤウナ風ニドウシテモシナケレバナラナイト存ジテ居リマス、又農村等ニ於キマシテハ、中等學校程度ノ教育ヲ普及サセ、モット青年學校ナリ實業學校ヲ地方ノ實情ニ應ジタヤウニ充實スルト云フ風ヲ努力ヲシナケレバナラナイハ勿論、其ノ中ノ優秀ナ者ハ上級ノ學校ニ進學出來

ル、而モ種々ナル補助獎勵ノ方法ヲ以テ進學ガ出來ルト云フ風ナコトヲシタイ、サウ云フ風ナ組織ヲ考ヘタイト云フ風ニ存ジテ居ル次第デゴザイマス、○保利委員 是ハ難カシイ問題デスカラ、到底満足ヲ得ルヤウナ御答ヘヲ戴カウト云フコトハ無理カト思ヒマシ、ドウカ一ツ農家ノ子弟ヲシテ國家中堅ノ材トシテ活躍セシメ得ルヤウナ機會ガ、教育上ノ施設ノ誤リニ依ツテ與ヘラレナイト云フコトガ起ラナイヤウニ私ハ御願ヒシタイ、サウ云フコトノ爲ニ一ツ渾身ノ御努力ヲ御願ヒシタイト云フ希望ヲ申上ケテ、文部大臣ニ對スル質問ハ止メマス

要スルニ、今回ノ計畫ハ一應大キク擴ゲラレマシタケレドモ、倍々二箇年ノ内ニ是ガ實際實施シ得ラレカドウカ、市町村ノ農地委員會、此ノ機能ガ、果シテ本當ニ農林大臣ガ考ヘラレテ居ルヤウニ動クカドウカ、成否ノ鍵ガ市町村ノ農地委員會ニ悉ク課セラレテ居ル、是ハ或ル意味ニ於テハ民主的ノダト言ハレルカモ知ラセマスケレドモ、聊カ政府ノ責任逃レト云フヤウナ感ガ湧カナイデハアリマセヌ、私ハモウ少シ突込ンデ、本來斯様ノ問題ハ平和時デアラナラバ政府ハ突込ンデ行クベキデハナイト思ヒマスケレドモ、少クモ此ノ未曾有ノ改革ヲ斷行セラレントスルニ當ツテハ、政府ガ自ら村ニ飛込ンデ片付ケテヤルト云フ位ノ迫力ト熱意ヲ持タザレバ、農地委員會ハ是カラ選舉スル、選舉方法ハ斯ウダト言ハレルガ、其ノ選バレテ來ルヤウナ者ニ、此ノ大目ノヲ達スルト云フヤウナ、大キキナ使命ニ對スル認識ヲ持タシメルダケデモ私ハ容易デナイト思フ、ソコデ此ノ農地委員會ノ構成ニ付テ、或ハ運営

ニ付テ幾多御尋ネヲ申上ゲタイノデゴザイマスガ、是ハ他ノ同僚ノ方々カラモドウセ御意見ガアルト思ヒマスカラ、私ハ最早時間モ相當ツテ居リマスカラ結論的ニ申サセテ戴イテ、大臣或ハ是ハ政府全體ノ御考ヘヲ伺ヒタイノデアリマスガ、要スルニ、今回ノ農地改革ハ我が國ノ農政ノ再出發ト云フコトニナル譯デアリマス、私ガ申シマシタ所ノ以上ノ諸點ニ付キマシテデモ、實際其ノ問題ヲ解決スルノニハ、色々ナ困難ナ大キイ問題ガ伏在シテ居ル、只今モ申述ベマスヤウニ、或ハ教育上ニ關スル問題、或ハ農村自治ノ運営ノ問題、或ハ農業生産力ヲ如何ニ保持スルカ、如何ニ發揚シ、サウシテ日本ヲ圍繞スル所ノ農業國タル諸國ニ經濟的ニ相拮抗シ得ルカ、是等ハ幾多大キイ問題ガ殘ツテ居ルノデアリマスガ、此ノ農政再出發ニ當ツテ、今後ノ新シイ恆久的ノ農村對策ト云フモノハ新ナル考ヘ方デ行カナケレバナラヌ無論大臣ハ其ノ御考ヘデ進ンデ居ラレル譯デアリマスガ、全國全體トシテ、政治全體トシテ大キク取上ゲナケレバナラナイノデハナイカ、即チ私ハ農村ノ國家經營上ニ於ケル地位ト權威ト云フモノハ、此ノ戰爭ヲ轉機ニシテ恐ク幾層倍ト云フヤウニ加重セラレテ來タ、即チ其ノ新シイ見地ニ立ツテノ農村對策ト云フモノハ、國策ノ殆ド中心部分ヲ占メテ來ルノデハナイカト思ヒマス、隨ヒマシテ之ニ對シテハ、一體政府ハ經濟安定本部デ農村ノ恆久對策ヲ考ヘラレル積リデアルカ、或ハ農林大臣ノ監督下ニ於テ農林大臣ノ責任ニ於テ立テラレル積リデアルカ、乃至ハ新ナル構想ヲ立テラレテ、少クトモ農村ノ恆久對策ノ

樹立ニハ新ナル構想ヲ探ツテ、政府ハ何等カノ手ヲ打ツベキデハナイカト云フヤウニ考ヘルノデアリマスガ、之ニ付テ私ハ總理大臣ノ御考ヘヲ伺ヒタカッタ譯デアリマスケレドモ、農林大臣カラ御考ヘガアレバ伺ツテ置キタイト思ヒマス

○和田國務大臣 御話ノヤウニ、此ノ農地改革ハ今後ノ日本ノ農政ノ出發點ヲ成ス譯デゴザイマシテ、此ノ基礎ノ上ニ色々ノ農政ガ行ハレテ來ルコトト相成ル譯デアリマス、隨ヒマシテ是ハ今後ノ恆久的ノ農業政策ト云ヒマス

カ、農政ト云ヒマスモノハ、唯農政ノ分野ニ於テノミ解決シ得ル問題ト、サウデアリマセヌデ、他ノ部門トノ關聯ニ於テノミ解決シ得ルヤウナ政策ガ多分出テ來ルト思フ、デアリマス、ソレ等ノ點ニ付キマシテハ、サウ云ツタ農林省獨自ノ調査會カ何カ作ツテヤルカ、或ハ安定本部ニサウ云フモノヲ設ケルカドウカ、今決定ハ致シテ居リマセヌガ、是ハ政府ト致シマシテ何等カノ形ニ於テ、サウ云フ單ニ目先ノ經濟安定ト云フコトダケデナシニ、長イ將來ヲ考ヘタ所ノ、戰後ニ於ケル日本ノ財政經濟、或ハ農政其ノ他ノコトヲドウスルカト云フコトニ付テ是非何カ考ヘテ見タイ、斯ウ思ツテ居ル次第デアリマシテ、御趣旨ノ點ハ十分考ヘマシテ、適當ナ手段ヲ盡シ實行ヲ致シタイト存ジテ居リマス

○保利委員 色々御伺ヒシタイコトモアリマスケレドモ、私ノ一應ノ質問ハ是デ以テ終リト致シマス

○藥劑委員長 此ノ際御諮リ致シマスガ、布利秋君カラ保利君ノ質疑ニ關聯シテ質疑ヲ致シタイト御希望ガアリマスガ、之ヲ許可スルニ御異議ゴザイ

マセヌカ

○布委員 今ノ委員長ノ御話トハ違フノデアリマシテ、私ハ他ノ日デモ宜シイノデアリマス

○藥劑委員長 今日デナクトモ宜シイノデスカラソレデハ上林山君ニ御相談シマスガ、アナタノ御要求ハ農林、內務、司法、安定本部長官、總理、斯ウナツテ居リマス、只今農林大臣ダケハ御見エニナツテ居リマスガ、農林大臣ダケニ對スル質疑デモ行ハラマスカ

○上林山委員 アト十分間デハ何モ質問ガ出來マセヌカラ……

○藥劑委員長 ソレデハ本日ハ此ノ程度デ散會スルコトニ致シタイト思ヒマス、唯此ノ際政府當局ニ一言御希望ヲ申上ゲテ置キマスガ、本案ノ如キ重要法案ノ審議ニ對シマシテハ、十分ニ時間ヲ取リタイト云フコトハ、昨日ノ各委員間申合セニモアツタ通りデアリマシテ、本日モ午前十時始正確ニ皆サンガ御參集ニナツテ居ツタ、唯政府當局ノ御出席ガナカツタ爲ニ、約三十分間バカリ開會ガ遅レタト云フヤウナ次第デアリマシテ、洵ニ審議上下ウカ時間ヲ正確ニ御出席下サルヤウニ願ヒタイ(拍手)御注意ヲ申上ゲテ置キマス、明日ハ午前十時ヨリ續行スルコトニ致シマス、本日は是ニテ散會致シマス

午前十一時四十分散會

【參照】

自作農創設特別措置法案委員會要

求資料

六、耕地返還要求件數及ビ面積並ニ其ノ理由調査表

(一) 返還決定ノモノ

(二) 繫争中ノモノ

午前十一時四十分散會

【參照】

自作農創設特別措置法案委員會要

求資料

六、耕地返還要求件數及ビ面積並ニ其ノ理由調査表

(一) 返還決定ノモノ

(二) 繫争中ノモノ

午前十一時四十分散會

終戦直後ヨリ昭和二十年
十一月二十三日迄
内譯 昭和二十年十一月二十三
日以後現在迄

昭和二十一年十月十六日印刷

昭和二十一年十月十八日發行

衆議院事務局

印刷者 印刷局